

民泊新法あす施行 届け出低調で値上がり懸念

訪日観光ブームに冷や水も



民泊の営業を解禁する住宅宿泊事業法（民泊新法）が15日施行される。厳しい規制などの影響で、民泊物件の届け出が予想以上に伸び悩む中、運営規制を強化する動きが現れる。なぜか旅館をめぐらす見方もある。訪日観光ブームに水を差す恐れもありそうだ。

「これから訪日客は宿泊先を確保できるのだろうか」。業界団体、民泊民宿協会（東京）の大坂登代表理事は心配顔だ。国内の民泊物件はこれまで6万件を超えていたが、観光庁によると、今月8日時点で民泊営業の届け出は全国で2707件。うち手続きが終了（受理）したのはわずか1134件にとどまり、残りは窓口の自治体が書類確認などを進めているという。旅館業法に基づく「簡易宿所」などを含めても物件数は2～3割に減るとの見方が多い。

新法は「ヤミ民泊」の取り締まりを目的に事業者に自治体への届け出を義務付けている。届け出の動きが鈍い背景には、営業日数が「年間180日以内」と

定められたことがある。民泊専業で収益向上は難しく、営業をやめるケースが続出している。

消防法などの法令も絡むため、運営代行を手掛ける楽天ライフルスティ（東京）の太田宗克社長は「開業準備はかなりの時間と手間がかかる」と打ち明けた。運営規制を強化する動きをめぐらす見方もある。旅館をめぐらす見方もある。訪日観光ブームに水を差す恐れもありそうだ。

「何だか高くなっている？」。民泊の宿泊料をめぐり、インタ

ーネット上ではこんな書き込みが見られ始めた。物件数の減少で競争環境が緩んだほか、営業日数の制約もあり、従来通りの収益を確保するには宿泊料の値上げが避けられないためだ。

民間の調査によると、民泊とホテルの料金競争が激化した結果、2017年は民泊の施設は2016年よりも多くなった。新法によってはさらに転じる可能性も出ている。米民泊仲介サイト、ホームアウェイの木村奈津子日本支社長は



光庁の田村長官（左）に手渡す、米ニア・レーベン氏

3月、観光庁

民泊仲介業者の登録申請書類を観

用する方針だ。

百戦錬磨（仙台市）は修学旅行生を受け入れている地方の農山漁村で、転用呼び掛けています。山本博社長は「民泊の新規参入はたくさんいる」と指摘した上で「3年後には元通りの物件数に戻るのではないか」と予想している。

りそな総研は、関西で民泊が盛んな背景について「格安航空会社（LCC）を利用して訪れるアジアからの客が増加しており、安価な民泊を好む傾向が強いことが一因」と分析している。他の地域は九州が114億円、北海道が54億円、中部が51億円など。

調査は、観光庁による訪日外

国人の消費動向調査などから集計。宿泊場所についてホテルや知人宅など以外の「その他」と答えた人を民泊への宿泊者とみなして、宿泊費の年間総額を推計した。



円からで、民泊仲介サイトで募集中です。

東武鉄道はホテル事業を展開しているが、訪日外国人家族の連泊需要への対応と、不動産賃貸事業では民泊による短期賃貸が収益向上につながると判断し、参入を決めた。

今後は、同区周辺地域での物件開発を進めるほか、区内の空き家対策への貢献も視野に入れることとする。



「足まわりの美しさは
安全運行につながる」と
話す佐々木信志さん

らアルミ製ホイールを採用。タフブライトに切り替えてからは十数年になる。

旅行はもちろん、各種施設から駅までの送迎、部活動の遠征など、バスの用途は幅広い。東日本大震災の時には、ボランティア活動の足としていち早く被災地までの無償運行を始めた。

社内の壁には、顧客からの感謝の手紙とともに、こんなスローガンが貼ってある。「バスはメーカーが作るもの。ドライバーはバス会社が作るもの。ロマンスは、ドライバーがセールスポイント」。自らバスを磨きあげ、安全意識の高いドライバーを育てることこそが、企業ブランドングにつながると誇りを持つ。

「目が行き届く範囲の規模を守り、品質管理を徹底しながら少人数でブランド化を図っていきたい」と、佐々木良隆社長。タフブライトは、そのための強力な武器であり、多くの顧客獲得に貢献している。

純国産アルミホイールといふ選択

ルポ 新日鐵住金「タフブライト®」の挑戦

日本最大手の鉄鋼メーカー、新日鐵住金が、トラック・バス用に製造・販売する純国産のアルミ製ホイール「タフブライト®」。ホイールに輝きを求めるユーザーのニーズに応えて高輝度を実現。世界最軽量クラスで、スチール製に比べ2～3倍の耐久寿命を持つ。軽量化で積載量が増加したことにより、運送効率がアップ。燃費が改善される点も好評だ。輝度の高さが企業のイメージアップにもつながることから、運送業界や観光バス業界などでタフブライトを採用する企業が着実に増えている。ユーザーの声を聞くため、導入企業を訪問した。

第2回 ロマンス観光バス

タフブライトは、大阪市内にある新日鐵住金の製鋼所で製造されている。ここでは、日本で唯一、鉄道の車輪も製造。その高い技術力を駆使して開発されたトラック・バス用のアルミ製ホイールが、タフブライト。その生産拠点がある大阪に、タフブライトが持つ輝きに魅せられたバス運行会社がある。

「まず、磨いたときの輝きが他社のアルミ製ホイールとまったく違います。海外製のものが多いなか、メイドインジャパンで、しかも地元大阪でつくられているのが気に入りました」

こう話すのは、大阪府南部の和泉市に

本社があるロマンス観光バスの佐々木信志営業部課長。車体に虹が描かれた自慢の大型バスの前で、顧客に支持され続ける理由を打ち明けてくれた。

一番の売りは、行き届いた清掃と、徹底した安全管理にあるという。鏡面のように周囲の景色をうつし出すピカピカのホイールや、艶のある大理石風フローリング。通常は洗車マシンを使う同業者が多いため、同社では、バスの屋根から足まわりにいたるまで、ドライバーが手作業で時間をかけて洗車している。

屋根の上は高所作業車でのぼって磨き、ホイールや床面はタオルで拭いてい



鏡面のように周囲の景色をうつすアルミ製ホイール



細部までていねいに磨きあげられたバス車体

く。年に数回の徹底清掃では、座席シートをすべて取り外し、隙間の汚れひとつも見逃さない。ドライバーたちが自ら手洗いし、細部までていねいに磨き上げられた“きれいなバス”こそが、“安全なバス”というのが、同社の信条。

「ファッションは足元からと言われるように、バスも足元がきれいだと全体がきれいに見えます。そして、ホイールの裏側など普段は見えないところまで清掃を徹底することで傷や亀裂を見発見でき、安全面でも信頼を得ることができます」と佐々木課長は言う。

そうした管理へのこだわりに欠かせないのがタフブライト。ダイヤモンドチップを用いた高精度な加工により、一般的なアルミ製ホイールに比べて輝度は約20%高い。「磨けば磨くほど輝きを増すことで、他社との差別化につながっている」と話す。

取材当日、本社車庫には大型バスが2台待機していた。どちらのバスも新品のように光り輝いて見えたのは、タフブライトの魅力を知り尽くすドライバーたちのプロ意識の表れだった。

ブランディングにつながる

ロマンス観光バスは1971年、旅行用レンタカー会社として創業。2000年に一般貸切バス事業をスタートした。小型マイクロバス5台からはじめ、現在では大型バス5台を含む計10台を保有し、ナンバープレートの数字には末尾に「29」をつけ、語呂あわせで「福」（ふく）とかけ、乗客に福がくることを願う。車体には虹の模様をあしらっている。長距離走行の大型バスには燃費効率のいいホイールが欠かせないことから、20年ほど前か

新日鐵住金株式会社

タフブライト

交通産機品営業部
産機・ロール室
☎ 03・6867・6904

